

# 自己評価シートの工夫により生徒の内発的思考の 活性化を目指した合唱活動の試行 —キーコンピテンシー、21世紀型能力、アクティブラーニングに 関する文科省資料との比較考察—

新山王 政和\* 蕃 洋一郎\*\*

\*音楽教育講座

\*\*附属岡崎小学校

## A Trial Practice of Choral Activities for the Purpose of Studying the Endogenous Thinking of Students via the Use of a Self-Evaluation Sheet —A Comparative Study of MEXT Documents on Key Competencies; Skills Necessary for the 21st Century and Active Learning—

Masakazu SHINZANO\* and Yoichiro BAN\*\*

\*Department of Music Education, Aichi University of Education, Kariya 448-8542, Japan

\*\*Okazaki Primary School Affiliated to Aichi University of Education, Okazaki 444-0072, Japan

### 1. 研究の動機と背景

#### 1.1 研究の動機

筆者は、音楽科授業が現代的な教育課題へ果たす役割について検討している。今回はその最初の報告であるため、文部科学省の資料を分析し「音楽科教員が知っておくべきこと、知っておかなければならないこと」を整理した。さらに、そこで得た知見と共同研究者による実践とを対比しながら比較考察を試みている。

中学校音楽科の授業では、話し合いの場を頻繁に見ることができる。これは教師が音楽に関わる言語表現と非言語表現を駆使して生徒へ働きかけることで、集団思考の深まりと意思決定を促してきた成果であろう。また、そこでは教師が生徒へ語り掛けることで課題設定と解決策の模索へ導いており、これをきっかけとして生徒は自ら考えるようになり、互いに意見を交わして自分達の考えをまとめようとする。異なる意見が対峙した際は、「互いに説明し合い、説得しなさい」等のアドバイスを受けて納得や妥協のための話し合いが進む。筆者は、正にこれが現代的な教育課題に対応する教授法の一つであると考えている。なお筆者は「アクティブ・ラーニング＝子供へ丸投げして子供のやりたいように課題発見させる活動」や「教えないことこそが最善の教育」等の消極的な考え方とは距離を置き、

「発達段階に応じた適切な課題を子供が発見できるように周到に計画を練って備える授業」や「子供の多様な気づきや発見にも対応できるように計画的臨機応変を想定しておく授業」をめざしたい。

#### 1.2 問題の所在と、一連の研究の目的

教育関連の諸規定の上位法にあたる「学校教育法」第4章には次のような記述がある。<sup>(1)</sup>

「生涯にわたり学習する基盤が培われるよう、基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくみ、主体的に学習に取り組む態度を養うことに、特に意を用いなければならない」

さらに2014年に中央教育審議会へ出された諮問「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方」の中から、学習活動の在り方に関する部分で筆者が特に注目している指摘を整理して挙げておく。<sup>(2)</sup>

①判断の根拠や理由を示しながら自分の考えを述べる  
ことについて課題が指摘される

②基礎的な知識・技能を習得するとともに、実社会や実生活の中でそれらを活用しながら、自ら課題を発見し、その解決に向けて主体的・協働的に探究し、学びの成果等を表現し、更に実践に生かしていけるようにすることが重要である

③「何を教えるか」という知識の質や量の改善はもちろんのこと、「どのように学ぶか」という、学びの質や深まりを重視することが必要であり、課題の発見と解決に向けて主体的・協働的に学ぶ学習（いわゆる「アクティブ・ラーニング」）や、そのための指導の方法等を充実させていく必要がある

これらの指摘は、安易に課題発見を子供達へ託すことや無秩序な放任主義を推しているのではなく、子供が問題意識を持ち、それを解決するために必要な知識の習得や技能等を自ら考え、それを身に付ける方策を他者と話し合いながら共通理解化と共有化を図ることができるように、教師が「適切な場」を用意することが大切であることを示唆していると考えられる。

これを踏まえて我々が取り組むべき課題とは、諮問の中で掲げられた教授方法や活動の在り方について、音楽科の授業の中で子供達が身に付けるべき力や知識・資質の獲得を確実に担保する方策を検討することであろう。よって今回の一連の研究では、子供達の内発的思考を活性化する方策を拠り所とした音楽活動の在り方を模索してみたい。本報告はその初回であることから、文科省から出された資料の分析に基づいて筆者の立脚点を措定した上で、筆者が考える子供達の内発的な音楽活動の在り方を整理した後、そこで得た知見を手がかりに試行実践との比較考察を試みる。

### 1.3 研究の背景：文科省から出された資料の分析

#### 1.3.1 「アクティブ・ラーニング」の措定

今求められるアクティブ・ラーニングとは、大学教育の質的強化と専門性の向上、学修の活性化をめざして文科省から出された「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて」を核としている。<sup>(3)</sup> この中から筆者が重視する記述を挙げておく。

「教員による一方向的な講義形式の教育とは異なり、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法の総称。(略) 発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習等が含まれるが、教室内でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワーク等も有効なアクティブ・ラーニングである」

つまり、ここで求められている教授法とは、特定のものではないことになる。

#### 1.3.2 「OECDのキー・コンピテンシー」の措定

現在進行中の教育改革を牽引することとなったOECD「PISA調査」の基本概念の一つである「キー・コンピテンシー」について、文科省が示した「OECDにおけるキー・コンピテンシーについて」から筆者が特に重視している点を整理しておく。<sup>(4)</sup>

①社会的・文化的・技術的ツールを相互作用的に活用する能力。

・言語、シンボル、テキストを活用する能力

・知識や情報を活用する能力

・テクノロジーを活用する能力

②多様な集団における人間関係形成能力

・他人と円滑に人間関係を構築する能力

・協調する能力

・利害の対立を御し、解決する能力

③自立的に行動する能力

・大局的に行動する能力

・人生設計や個人の計画を作り実行する能力

・権利、利害、責任、限界、ニーズを表明する能力

#### 1.3.3 「21世紀型能力」の整理

文科省の資料「求められる資質・能力の枠組み」の中から「21世紀型能力」として筆者が特に重視している点を挙げておく。<sup>(5)</sup>

①基礎力：言語スキル、数量スキル、情報スキル

②思考力：問題解決・発見力・創造力、論理的・批判的思考力、メタ認知・適応的学習力

③実践力：自律的活動力、人間関係形成力、社会参画力、持続可能な未来への責任

#### 1.3.4 新たな視点による教授法と教育目標の整理

様々な知見に基づく検証や多元的視点視座からの検討を踏まえて示された「教育課程の編成に関する基礎的研究・報告書7」から、筆者が特に注目する記述を挙げた後、重視している点についても整理しておく。<sup>(6)</sup> 「資質・能力を育成する教育課程の編成にあたっては、解いて意味のある課題の設定や、解決のための『すべ』も含めたりソース、考えを交換して相互作用を深められる学習機会の準備等が重要である。」

その際の視点として次の事項を提案している。

①有意義な文脈で学ぶ

②自分の考えを持っている

③対話で考えを深められる

④考えるためには材料が必要

⑤すべ（方略）は必要に応じて使うことができる

⑥学び方は繰り返し振り返って自覚できる

⑦学び合いの文化があるとより学びやすくなる

さらに同報告書の中から、教科等の内容とその学び方の関係性について整理しておく。

①教科等の概念の深い理解や本質の把握が「知識・技能の活用」につながる

②その実現のために「教科等の本質に関わるもの」と「教科等に固有の知識・個別スキルに関わるもの」とに精選した上で、「知識・技能」を“学習活動”を通して学ぶことで“資質・能力”を身に付ける」という構造で教育目標を記述することとしている。

#### 1.4 筆者が考える音楽科授業が果たすべき役割と、子供達へ身に付けさせたい力の措定

筆者は、音楽の諸要素に対する知覚や意識化を促し、アクティブ・ラーニングと21世紀型能力を核として内発的な思考判断や課題解決の深まりを誘発するような音楽科授業や学校内音楽活動の在り方を模索している。これらのスキルについては、音楽活動の中でしばしば見られる「計画的・意図的な対立から合意に向かう活動」「納得・妥協を得るための説得や話し合いの活動」に於いて、特に次の成長に関与できると考える。

- ①知識や情報を活用する能力（他人の意見や選択肢の理解、自らの意見の形成）
- ②他人と円滑に人間関係を構築する能力
- ③協調する能力
- ④利害の対立を御し、解決する能力

さらに、音楽科授業や学校内音楽活動で身に付ける力を次のように考えている。

- ①テクニカル・スキル（音楽に関する技術や知識）
- ②コグニティブ・スキル（音楽の状況の認識力）
- ③イノベーション（問題解決に向けた刷新力）
- ④インター・パーソナル・スキル（意思疎通力）
- ⑤コミュニケーションの力&コラボレーションの力

これらを受けて、研究授業や実践を構想する段階では、次の2点を大切にするように提案してきた。

- ①「自己理解の力」と「他者理解の力」が、コミュニケーションを確立する力へと繋がる
- ②「計画立案力（練習の見通しや段取りをつける力）」と「課題解決力（必要な知識や技術、それを身に付ける力）」が、自己実現の力へと繋がる

以上の事項を音楽科授業において身に付けさせることによって子供達の内発的思考が活性化し、それにより教育に関わる現代的課題の力にも結びついていくものと考えている。念のため再記するが、筆者は「アクティブ・ラーニング＝子供へ丸投げして子供のやりたいように課題発見させる教授法」や「教えないことこそが最善の教育」等の主張には与せず、「発達段階に応じた適切な課題を子供が発見できるように計画を練って備える授」と「子供の多様な気づきや発見にも対応できるように計画的臨機応変を周到に想定しておく授業」という考え方に立って授業を模索していきたい。

## 2. 実態把握：文科省調査報告に基づく現状の確認

### 2.1 調査の概要

2015年に国立教育研究所が公表した報告書「小学校学習指導要領実施状況調査：結果のポイント」、および「同調査：教科別分析と改善点」の中から、筆者が特に重視する点を整理することで小学校音楽科の実態を確認しておきたい。<sup>(7)</sup> 概要は次のとおりである。

①国立教育政策研究所「小学校学習指導要領実施状況調査」（H25年2-3月実施、H27年2月公表）

②小学校911校（約4.2%）から対象学年の約11万人（約3.2%）を無作為抽出。音楽科の調査は6千名以上の6年生を対象として行われた。対象者へ音楽の授業を行っている教員は、音楽を専門とする教員と音楽を専門としない教員の両方を含む。質問紙調査は、小学生と担当教員、学校長を対象として行われている。

### 2.2 「児童質問紙」の報告において筆者が重視する点

「児童質問紙調査」の報告書から、筆者が重視する点を抜粋要約しておく。文頭の○印は達成と評価された事項で、×印は課題があるとされた事項である。

〈評価されたポイント〉

- 「音楽の学習は好きだ」⇒68%が肯定的
- 「音楽の授業がわかりますか」⇒66%が肯定的
- 「音楽の学習をすると、心が豊かになると思いますか」⇒78%が肯定的
- 「音楽の学習をすると、明るく楽しい生活ができるようになると思いますか」⇒73%が肯定的
- 「音楽の学習をして、いろいろな曲のよさやおもしろさ、美しさを感じ取れるようになりましたか」⇒82%が肯定的
- 「音楽の授業では、みんなで協力し、学び合っていますか」⇒73%が肯定的

### 2.3 「表現」に関する報告において筆者が重視する点

「表現に関するペーパーテスト調査」の報告書から、筆者が重要視している点を挙げておく。

〈問題があるとされたポイント〉

- ×歌詞の表す気持ちとそれにふさわしい音楽表現の仕方を結び付けることに課題が見られる。
- ×音楽表現の技能では、強弱の表現を実際に歌唱で表すことに課題が見られる。
- ×音楽表現に対する思いや意図を、言葉を用いて適切に表すことに一部課題が見られる。
- ×感じ取ったことと音楽的な特徴を結び付けて楽曲の特徴を言葉で適切に説明することに課題がある。

〈改善が求められたポイント〉

- \*音楽表現に対する思いや意図、感じ取ったことや想像したことなどを言葉を用いて適切に表すことができるようにすること、言葉で表す活動と実際に音で表したり音楽を聴いたりする活動とのバランスを工夫することが求められる。
- \*音で表す音楽表現力が表現領域で本来育成する力である。したがって、「このようにあらわしたい」という音楽表現に対する思いや意図を言葉等を用いて表す表現力と、音楽表現力との関連を図りながら、必要な音楽表現の技能を育むことが重要である。

## 2.4 「音楽づくり」に関する部分で筆者が重視する点

〈問題があるとされたポイント〉

×音楽の仕組みを生かすことはできるが、つくる過程を楽しみながら試行錯誤し、考えたり判断したりしながら創意工夫する活動の一層の充実が今後の課題であると考えられる。

〈改善が求められたポイント〉

×何を意識して音楽をつくるのかを明確にすること、つくる音楽の形や表現方法などについて見通しをもつようにすること、児童のつくる音楽について適宜、そのよさを認めたりする指導を充実することが重要。

## 2.5 「鑑賞」に関する報告において筆者が重視する点

「鑑賞に関するペーパーテスト調査」の報告書から、筆者が重要視している点を挙げておく。

〈問題があるとされたポイント〉

×曲想の変化と複数の音楽的な特徴を結び付けて聴くことに課題がある。

×楽曲全体を通して、想像したことや感じ取ったことと音楽的な特徴を結び付けて、楽曲の特徴を言葉で適切に表すことに一部課題が見られる。

×長調か短調かを聴き分けたり、二つの旋律の重なり方を聴き取ったり、旋律の特徴を捉えたりすることには課題がある。

×聴き取ったリズムと楽譜を結び付けることに課題がある。

〈改善が求められたポイント〉

×聴覚と視覚を関わらせて音楽的な特徴を捉える指導を充実することが重要。

×～対照的な働きを比較しながら～、～実際の音と関連させてその意味や働きを理解したり～、児童が実感をもって理解していくことができるように指導を工夫することが重要。

## 2.6 「調査結果の所見」において筆者が重視する点

×音楽的な特徴とそれらの働きが生み出す雰囲気捉えている児童は、それらを捉えていない児童に比べて、思いや意図を持つ問題の通過率が高い。

×合奏の改善すべき点やよさを捉えている児童は、それらを捉えていない児童に比べて、思いや意図を持つ問題の通過率が高い。

×楽曲の音楽的な特徴をとらえている児童は、それらを捉えていない児童に比べて、楽曲の特徴を紹介する文を書く問題の通過率が高い。

×「リズム、旋律、速度などの特ちょうや、くり返し、変化などの音楽のしくみに気をつけて、歌ったり楽器を演奏したりすること」に肯定的な児童は、ペーパーテストの8割の問題において否定的な児童よりも、通過率が10ポイント以上高い。特に、思考力・判断力・表現力の育成に係る記述問題では、両者の

通過率に約20ポイントの差がある。

×「音楽の授業では、みんなで協力し学び合っていますか」「歌ったり楽器を演奏したり音楽をつくったりするときに、自分はこう表したいという願いや考えをもつようにしていますか」に肯定的な児童は、表現（歌唱・器楽）の創意工夫に関する記述問題の通過率が10ポイント以上高い。

## 3. 知見を基に措定した筆者のスタンス

### 3.1 子供達の内発的思考を促す音楽活動の条件

前章までに整理した文科省の資料から得た知見を基に、筆者のスタンスを整理する。既に拙論で繰り返し触れてきたが、音を出すことと聴くことは相互作用的に深く結びついており、可逆的かつ不可分である。その重要性については國安愛子が整理しているので、その中から筆者が重視する点を抜粋要約しておく。<sup>(8)</sup>

①音楽の聴き取りは脳全体の多数の領域が総合的に関連して処理している

②音楽を集中して聴いている時、左半球の聴覚野は約25%多く反応している

③家庭でよく音楽を聴く子供は、3歳上の子供と同じ水準で脳の聴覚活動が活発

④音響情報の聴き取りは側頭葉で処理（略）+体を動かすのは運動神経が処理（略）⇒音楽と体の動きを同調させながら聴くと、感覚神経と運動神経が視床下部で同期する

さらに、スポーツと同様に、音楽科授業では反応を返してくれる子供達が不可欠であり、子供達が育てば育つほど、より質の高い活動が可能になる。そして「その音楽の何が面白いのか、どう興味深いのか」、「自分が好きなジャンルと何が違うのか」「なぜその地域の人はこの音楽を大切にしてきたのか」等、教師自身と他者の意見を比較させて自ら音楽へ向き合う楽しさを子供達へ紹介し、子供自身の価値観と照合するように導くことができなければ、自らが音楽の真の楽しさを探しにいくような能動的な授業は成立しない。

### 3.2 子供達の内発的思考を活性化する音楽科授業の学習ステップ

まず音楽科授業では、聴く行為そのものが既に「能動的に音楽と向き合い、自らの音楽的な表現要求と照合して聴く」という創造的な活動であることを子供達へ体感し理解させなければならない。筆者自身の一連の研究では、全ての音楽活動を貫く基盤を「気付く・感じ取る・比べる・考える・まとめる・伝える」ことであると措定し、「演奏しながら〇〇に気を付けて聴く。演奏しているつもりで〇〇の変化や工夫を聴き取る」のように、音楽構成要素を触媒として演奏と鑑賞が相互作用的に関わり合う活動を探ってきた。<sup>(9)</sup>

これらを受けて音楽科授業において子供達の内発的思考を活性化するために必要な学習ステップを次の5段階に措定している。

- ①他者や自身の演奏を聴いて音楽の諸要素に気付き、感じ取り、意識する段階（要素を知覚し認知する力や、要素に気づき、聴き分ける力）
- ②他者や自身の演奏を聴いたり、練習前と練習後の演奏を聴き比べたりして、音楽の諸要素の良さや働きを自覚し、それを生かしたり際立たせたりする段階（要素を活用した表現や鑑賞を工夫する力）
- ③音楽の諸要素同士の係わりや組み合わせによって生まれる効果や働き、要素の組み合わせで形づくられる音楽の仕組みを考える段階（楽曲全体の中で要素の働きや良さを考え、包括的に捉えて再構成する力）
- ④音楽の諸要素同士の係わりや組み合わせによって生まれる効果や働き、要素の組み合わせで形づくられる音楽の仕組みを考える段階（要素を包括的に捉えて再構成する力）
- ⑤気付き感じたことを自らの演奏へ結び付け、言語・非言語活動を活用して共通理解へ高めた上で演奏へフィードバックする段階（演奏者相互の説明力や説得力、言い替える力や置き換える力）

ここで重要なのは、音や音楽の正体や仕組みを知っていて（知識）、それを自在に使いこなす“すべ”を持っていなければ（技能）、より高いレベルでの音楽活動には繋がらないということである。つまり演奏者は自らの思いや意図を具現化するために演奏上の工夫を試行錯誤することを楽しみ、鑑賞者はその工夫や試行錯誤を読み解き演奏者の思いや意図を予想し推察しながら聴くことを楽しむ。故に、より高い芸術性や情操（情の操り方：私見）を育み、感性（対象の性格・性質・キャラクタを感じ取る：私見）の育成をめざす上では、発信者である演奏者を育てることと受信者である鑑賞者を育てることは同義であり、不可分である。

#### 4. 中学校音楽科において自己評価カードを活用して生徒の内発的思考の活性化を促した試行実践

##### 4.1 試行実践の概要と筆者が目したポイント

文科省資料から得た知見に基づき措定した現代的な教育課題に対応する音楽科授業という観点から、自己評価カードの工夫によって生徒の内発的思考の活性化を模索した実践を考察する。これは共同研究者である蕃洋一郎教諭により愛知県T中学校に於いて201\*年度（生徒の特定を防ぐため実施年度は伏字）の1学期から2学期の前半（校内合唱コンクールまで）にかけて、1年生275名と2年生258名を対象として行われた。ここで用いられたカードは、生徒が自ら課題を発見・設定し、課題解決に向けて活動を促すように工夫されてい

た。これを基に筆者が一部修正したものから、本報告では紙幅の都合により概要のみ記載する。期間中に扱われた内容は、歌唱と合唱および鑑賞である。

結果分析は、自己評価カードに記述された言葉と内容について実践者の蕃教諭が分析を行った後、筆者が主に数値についてクロスチェックを行って精査するとともに、筆者自身の視点から考察を進めた。このカードを監修した際に筆者が目した理由は、次の点を指して作成されていたからである。

- ①自己評価が自らの課題発見や設定に繋がっている
- ②自己評価を「頑張った、一生懸命やった、協力した」等の抽象的なものにならないよう視点の方向性を限定することで、自らの課題発見と設定へ繋げている
- ③同じ視点で音楽の諸要素に向き合い、同じ方向で共通の話題について活動できるように工夫している
- ④カードに沿って活動するうちに、音楽の諸要素について「気づく・学ぶ・感じ取る・考える・確認する」というプロセスで意識化を促すように工夫している
- ⑤記述欄が音楽の諸要素に関連したことや音楽に関わる「ふり返し」になるよう導かれており、生徒の自学自習と新たな課題発見を促すように工夫している
- ⑥自己評価の方向性が明確なので、生徒は活動の流れを予想し、何がどうなることを目指して練習したらよいのか課題解決に向けた段取りを組み立てやすい次節以降、このカードの概要を紹介する。丸数字はカードの順番、【活動のめあて】、〈自己評価のポイント〉と評価の際の目安となる〈確認ポイント〉、\*印が記述課題を表している。実践後の分析は、記述された文章と、用いられた言葉に注目して行った。

##### 4.2 1年生の1学期に用いた自己評価カードの概要

###### ①1年生1学期1枚目の自己評価カード

【歌に親しもう】まずは歌の基本をマスターしよう！

\*教材：合唱曲、範唱CD

〈自己評価のポイント1〉

・歌う姿勢を保ち歌うことができたか？

〈確認ポイント〉

・目線は声の届く方向。正面より少し上

・上胸部はやや高くバストアップ

・おしりを閉じる感じヒップアップ

・両足かかとをつける

・つま先を開く、気を付け！の姿勢

〈自己評価のポイント2〉

・音がわからなくても口でリズムを取れたか？

・よそ事をせず集中して行うことができたか？

\*記述課題：どんなことに気をつけて歌ったか、反省や感想を書こう！

###### ②1年生1学期2枚目の自己評価カード

【歌に親しもう】まずは歌の基本をマスターしよう！

\*教材：合唱曲、範唱CD

〈自己評価のポイント〉

- ・リーダーの指示に従って歌うことができたか？
- ・CDの音を聴き取り、自分の声で表現できたか？
- ・5m先まで声を飛ばすことができたか？
- ・指3本が縦に入るくらいの口の大きさを歌えたか？

〈確認ポイント〉

- ・音源を囲んで向かい合って歌えたか？
- ・人の陰に隠れたり窓の外を見たりしていないか？
- \*記述課題：どんなことに気をつけて歌ったか、反省や感想を書こう！

③1年生1学期3枚目の自己評価カード

【いろいろな歌唱】それぞれの歌声の音色や表現について学ぼう！

教材：合唱曲、範唱CD、「鑑賞CD：魔王」、練習時の録音（ICレコーダーを各パート1台以上配置し、練習中は自由に録音再生して確認させる。以下同様）

〈自己評価のポイント1〉

- ・正しい音程で歌おうと気を付けていたか？
- ・声の音色にこだわって歌おうとしていたか？
- ・一つの旋律を皆で歌うことを斉唱と理解できたか？
- ・二つの旋律を歌うことを二部合唱と理解できたか？
- ・他のパートの音を聴くとつられるので自分のパートの音だけを聴いて歌っていないか？

- \*記述課題：次の○の部分を書き込もう！  
「学校歌は○つの旋律を多人数で歌うので○唱」  
「○の曲は○つの旋律を多人数で歌うので○部○唱」

【鑑賞：魔王】

〈自己評価のポイント2〉

- ・独唱と合唱の音色の違いに気づくことができたか？
- ・独唱と合唱の音色の違いがもたらす雰囲気の違いに気づくことができたか？

- \*記述課題：文例に従って、声の違いや音色の違いがもたらす雰囲気について書こう！

文例「音色が○だったから○と感じた」「自分たちの音色は○だったけど魔王の音色は○だったから自分は○の方が好きだ」「魔王の○な感じが好きだ」など

④1年生1学期4枚目の自己評価カード

【いろいろな歌唱】それぞれの歌声の音色や表現について学ぼう！

教材：合唱曲、範唱CD、「鑑賞CD：魔王」、ICレコーダー

〈自己評価のポイント1〉

- ・正しい音程で歌おうと気を付けていたか？
- ・声の音色にこだわって歌おうとしていたか？
- ・一つの旋律を皆で歌うことを斉唱と理解できたか？
- ・二つの旋律を歌うことを二部合唱と理解できたか？

〈確認ポイント〉

- ・他のパートの音を聴くとつられるので自分のパートの音だけを聴いて歌っていないか？

【鑑賞：魔王】

〈自己評価のポイント2〉

- ・登場人物、場面ごとに「声の表現」の違いを聴き取ることができたか？
- ・登場人物、場面ごとに「伴奏の表現」の違いを聴き取ることができたか？

- \*記述課題：文例に従って、登場人物ごと、場面ごとに、歌い方や伴奏の工夫を書こう！

文例「○場面は○だったから○と感じた」「登場人物は○な歌い方になっていて○と感じた」「登場人物○と登場人物○の雰囲気が○になっていたので○と思った」など

4.3 2年生の1学期に用いた自己評価カードの概要

①2年生1学期1枚目の自己評価カード

【歌に親しもう】まずは歌の基本をマスターしよう！

\*教材：合唱曲、範唱CD

〈自己評価のポイント1〉

「歌う姿勢を保ち歌うことができたか」

〈確認ポイント〉

- ・目線は声の届く方向。正面より少し上
- ・上胸部はやや高くバストアップ
- ・おしりを閉じる感じヒップアップ
- ・両足かかとをつける
- ・つま先を開く、気を付け！の姿勢

〈自己評価のポイント2〉

- ・音がわからなくても口でリズムを取れたか？
- ・よそ事をせず集中して行うことができたか？

- \*記述課題：どんなことに気をつけて歌ったか、反省や感想を書こう！

②2年生1学期2枚目の自己評価カード

【旋律線を生かした表現】曲にふさわしい歌い方を自分なりに追求しよう！

\*教材：合唱曲を2曲、範唱CD、ICレコーダー

〈自己評価のポイント〉

- ・CDの音を聴き取り、自分の声で表現できたか？
- ・5m先まで声を飛ばすことができたか？
- ・つられずに自分のパートを歌えたか？
- ・曲にふさわしい歌い方が見つかったか？

〈確認ポイント〉

- ・音源を囲んで向かい合って歌えたか？
- ・人の陰に隠れたり窓の外を見たりしていないか？

- \*記述課題：どんなことに気をつけて歌ったか、反省や感想を書こう！

③2年生1学期3枚目の自己評価カード

【旋律の重なり】二つ以上の旋律が重なっている曲の響きを感じ取ろう！

教材：合唱曲を2曲、範唱CD、「鑑賞CD：小フーガ・ト短調」、ICレコーダー

〈自己評価のポイント1〉

- ・正しい音程で歌おうと気を付けていたか？

- ・声の音色にこだわって歌おうとしていたか？
- ・二つの旋律を女性と男性に分かれて歌うことを混声二部合唱と理解しているか？
- ・三つの旋律を女性2パートと男性1パートで歌うことを混声三部合唱と理解しているか？
- ・旋律の重なり方の違いに気づくことができたか？

〈確認ポイント〉

- ・他のパートの音を聴くとつられるので自分のパートの音だけを聴いて歌っていないか？

＊記述課題：次の○の部分を書き込もう！

「Aの曲は○声○部合唱です。○な雰囲気や○な響きがあります」

「Bの曲は○声○部合唱です。○な雰囲気や○な響きがあります」

【鑑賞：フーガ ト短調】

〈自己評価のポイント2〉

- ・追いかけてこで作られていることに気づけたか？
- ・いろいろな追いかけてこを見つけれられたか？

＊記述課題：どんな追いかけてこを見つかることができたか書き出してみよう！

#### ④2年生1学期4枚目の自己評価カード

【旋律の重なり】二つ以上の旋律が重なっている曲の響きを感じ取ろう！

教材：合唱曲、範唱CD、「鑑賞CD：小フーガ・ト短調」、ICレコーダー

〈自己評価のポイント1〉

- ・正しい音程で歌おうと気を付けていたか？
- ・声の音色にこだわって歌おうとしていたか？
- ・二つの旋律を女性と男性に分かれて歌うことを混声二部合唱と理解しているか？
- ・三つの旋律を女性2パートと男性1パートで歌うことを混声三部合唱と理解しているか？
- ・旋律の重なり方の違いに気づくことができたか？

〈確認ポイント〉

- ・他のパートの音を聴くとつられるので自分のパートの音だけを聴いて歌っていないか？

【範唱CDとの聴き比べ】

〈自己評価のポイント2〉

- ・自分たちの録音と範唱CDを聴き比べて音色の問題点に気づくことができたか？
- ・自分たちの録音と範唱CDを聴き比べて音程の問題点に気づくことができたか？

＊記述課題：文例に従って、声の違いや音色と音程について気づいたことを書こう！

文例：「私達or範唱CDの音色が○だったから○だと思った」「～の音色が○だったから○な感じがした」など、必ず“音色”のキーワードを使おう。

「私達or範唱CDの音程が○だったから○だと思った」「～の音程が○だったから○な感じがした」など、必ず“音程”のキーワードを使おう。

【合唱と鑑賞を通したふりかえり】

〈自己評価のポイント3〉

- ・音色の違いを聴き取ることができたか？
- ・音色や音程を揃えて聴き合うことでハーモニーが生まれることを理解できたか？
- ・他のパートを聴くことの大切さが理解できたか？

＊記述課題：文例に従って、音や音楽を形づくる要素を見つけて、気づいたことを書こう！

文例：「○が○だと○な感じがする」「○が○になると○な雰囲気に変わる」「○な感じを出したいから○に気を付けて歌いたい」など。キーワードとなる“音や音楽を形づくる要素”をたくさん見つけよう。

#### 4.4 2学期の前半に1年生と2年生が共通で用いた自己評価カードの概要

##### ⑤1 & 2年生共通：2学期1枚目の自己評価シート

【校内合唱コンクールの音をとろう】よい合唱に必要な音色、音の重なり注意到練習しよう。

教材：合唱曲、範唱CD、ICレコーダー

〈自己評価のポイント1〉

- ・合唱にふさわしい音色で歌うために、顔の表情や、お腹を使った発声ができただか？

〈確認ポイント〉

- ・眉毛と鼻を同時に最大限上へ上げて歌えたか？
- ・よい表情は、一生懸命さを伝えるだけでなく、音色にも関係があることを理解できたか？

〈自己評価のポイント2〉

- ・音程を正確に取ることができたか？
- ・音の出だしを正確に入ることができたか？

〈確認ポイント〉

- ・音の重なりとは、二つ以上の旋律の「縦の線と横の線の関係」であることを理解できたか？
- ・「縦の線」とは和音の響き（ハーモニー）と、音の出だし（声を出すタイミング）であることを理解できたか？
- ・「横の線」とは、旋律の流れ方（リズム、強弱の変化、テンポの変化）であることを理解できたか？

＊記述課題：録音を聴いて音色はどうだったか気づいたことを書こう。録音を聴いて音の重なりはどうだったか気づいたことを書こう。

##### ⑥1 & 2年生共通：2学期2枚目の自己評価シート

【校内合唱コンクールの音をとろう】よい合唱に必要な音色、音の重なり注意到練習しよう。

教材：合唱曲、範唱CD、ICレコーダー

〈自己評価のポイント1〉

- ・合唱にふさわしい音色で歌うために、顔の表情や、お腹を使った発声ができただか？

〈確認ポイント〉

- ・眉毛と鼻を同時に最大限上へ上げて歌えたか？
- ・よい表情は、一生懸命さを伝えるだけでなく、音色にも関係があることを理解できたか？

〈自己評価のポイント2〉

- ・音程を正確に取ることができたか？
- ・音の出だしを正確に入ることができたか？

〈確認ポイント〉

- ・音の重なりとは、二つ以上の旋律の「縦の線と横の線の関係」であることを理解できたか？
- ・「縦の線」とは和音の響き（ハーモニー）と、音の出だし（声を出すタイミング）であることを理解できたか？
- ・「横の線」とは、旋律の流れ方（リズム、強弱の変化、テンポの変化）であることを理解できたか？
- \*記述課題：録音を聴いて音色はどうだったか気づいたことを書こう。録音を聴いて、音の重なりはどうだったか気づいたことを書こう。

⑧1 & 2年生共通：2学期3枚目の自己評価シート

【合唱を完成しようⅠ】確認！声の音色を揃えよう。

〈自己評価のポイント〉

- ・声の音色を揃えよう！  
例えばA君とB君の会話を聞いていても、どちらが喋っているか聞き分けることができます。これはA君とB君では声の音色が違うからです。しかし合唱の時はできるだけ声の音色を揃える必要があります。
- \*記述課題：自分たちの演奏録音と範唱CDを聴き比べて、音色についてどんなことに気をつけたらいいか考えて、文例に従って書き出してみよう。  
文例「私達は音色が○だから○な声で歌いたい」「私達は○な音色で歌っているので○な感じになってしまう」「○な音色で歌って○な雰囲気を出したい」など。

⑧1 & 2年生共通：2学期4枚目の自己評価シート

【合唱を完成しようⅡ】確認！音楽の縦と横を揃えたり整えたりしよう。

〈自己評価のポイント1〉

- ・音楽の縦と横を整えよう！（テクスチャ）  
縦糸と横糸で織り込んだ布（テクスチャ）と同じように、音楽にも縦の線（和音の響き、音の出だし）と、横の線（旋律の流れ方、リズム、強弱やテンポの変化）があります。合唱の時には、できるだけ縦の線と横の線を揃えたり整えたりする必要があります。

〈自己評価のポイント2〉

- ・パートのバランスを整えよう！  
合唱の時には、できるだけパート間の音量バランスを揃えたり、音量の優先順位を整えたりする必要があります。
- \*記述課題：自分たちの演奏録音と範唱CDを聴き比べて、テクスチャの中から“音の出だし”についてどんなことに気をつけたらいいか考えて、文例に従って書き出してみよう。  
文例「私達の音の出だしは○だから○にしたい」「私達は○なタイミングで歌い出しているので○な

感じになってしまう」「○なタイミングで声を出して○な雰囲気を表現したい」など。

【合唱を完成しようⅠとⅡを通してふり返り】気を付けて練習したいと思ったことを、いつも心がけて練習しよう。

〈自己評価のポイント3〉

- ・合唱にふさわしい音色で歌うために、顔の表情やお腹を使った発声ができただか？
- ・周りの音を聴きながら、音程を正確に取れたか？
- ・音が出る直前でしっかりブレスをして、音の出だしを揃えることができたか？
- ・音を伸ばす長さに注意して正確な長さで歌えたか？
- \*記述課題：音色、音の出だし、音を伸ばす長さ、和音の響き（ハーモニー）、パートのバランスについて、気づいたことを自由に書き出してみよう。

〈自己評価のポイント4〉

- ・自分たちの演奏録音を聴いて、音色、音の出だし、音を伸ばす長さ、和音の響き（ハーモニー）、パートのバランスはどうだったか？
- ・自分の活動をふり返ってみて、音色、音の出だし、音を伸ばす長さ、和音の響き（ハーモニー）、パートのバランスはどうだったか？

⑩1 & 2年生共通：2学期5枚目の自己評価シート

【合唱を磨き上げよう】歌詞の発音に気を付けて歌うと、音の出だしも揃うよ

教材：合唱曲、範唱CD、ICレコーダー

〈自己評価のポイント1〉

- ・これまで学んできた「音色」「縦の線：和音の響き、音の出だし（声を出すタイミング）、パートのバランス」と、「横の線：旋律の流れ方、リズム、強弱の変化、テンポの変化」を理解できているか？
- ・歌詞の発音を意識しながら歌い、音の出だしのタイミングを揃えることができたか？

〈確認ポイント〉

- ・高い音ほど頭頂部に近いポイントへ当てて響かせる意識を持つことを理解できているか？
- ・サ行は、早く発音してSの無声音を多めに加える
- ・ハ行は、早く発音してHに時間をかける
- ・ヤ行は、直前にI（イ）を加えて発音する
- ・ナ行は、直前にN（ン）を加えて発音する

〈自己評価のポイント2〉

- ・音色は整っていたか？
- ・和音の響き（ハーモニー）は整っていたか？
- ・パート間の音量バランスはよかったか？
- ・音を伸ばす長さは楽譜と音符と合っていたか？
- \*記述課題：録音を聴いて、歌詞の聴き取りやすさはどうでしたか？歌詞の発音に気を付けて歌うとどう変わっていましたか？気づいたことを書きだそう。

⑩1 & 2年生共通：2学期6枚目の自己評価シート

【合唱を磨き上げよう】楽譜の速度記号や強弱記号を意



識して歌おう。

教材：合唱曲、範唱CD、ICレコーダー

〈自己評価のポイント〉

- ・これまで学んできた「音色」「縦の線：和音の響き、音の出だし(声を出すタイミング)、パートのバランス」と、「横の線：旋律の流れ方、リズム、強弱の変化、テンポの変化」を理解できているか？
- ・楽譜の速度記号や強弱記号を、音楽の変化と結び付けて歌うことができたか？
- ・音色は整っていたか？
- ・和音の響き（ハーモニー）は整っていたか？
- ・パート間の音量バランスはよかったか？
- ・音を伸ばす長さは楽譜と音符と合っていたか？
- ・歌詞ははっきり聞き取れるよう発音できていたか？
- \* 記述課題：録音を聴いて、楽譜の速度記号や強弱記号はどうでしたか？速度記号や強弱記号を意識して歌うとどう変わっていましたか？気づいたことを書きだそう。

#### ⑩1 & 2年生共通：2学期7枚目の自己評価シート

【合唱コンクールを終えて】コンクールの録音を聴いて自己評価してみよう。

教材：コンクールの実況録音のCD

- \* 記述課題：今からコンクールの録音を3回聴きます。録音を聴きながら、それぞれの項目について気づいたことや感想を書きだそう。

〈自己評価のポイント〉

- ・美しい音色で歌えていたか？
- ・和音の響き（ハーモニー）は整っていたか？
- ・パート間の音量バランスは適切であったか？
- ・音の出だしが揃うように発音できていたか？
- ・声の響きが揃うように、音符の長さの最後まで伸びていたか？
- ・表現にふさわしい顔の表情やお腹の使い方ができていたか？
- ・表現にふさわしい速度や強弱の変化を意識して、曲想を味わいながら歌えたか？

#### 4.5 結果と考察

実践前は「頑張って歌えた、真面目に取り組めた、協力してできた」等の学習態度に関する記述が多かったが、実践後は音楽の諸要素に関わる記述が全体の7割以上を占めた。要素に関わる記述の内訳を分析すると、実践前は「音色、旋律、リズム」に関する記述しか無かったのだが、実践後は「音色、テクスチャ（音の出だし・音の長さ・ハーモニー・バランス）、強弱」等の多様な要素を使い分けて記述できるようになっている。一般的に、強弱の概念が音色や音高の概念と未分化で分離・区別できないことが多く、強弱の変化を音色の変化や音高の違いと誤って知覚することが少なくない。具体的には「小さい音⇔やさしい音、大きな音

⇔鋭い音]、「大きい音⇔高い音、小さい音⇔低い音」のように混乱する例が多い。しかし今回の実践では、自己評価カードを通して様々な音楽の諸要素へ注意を向けさせて意識化を促したことで、音楽的な気づきや話し合いも増えて、生徒自らが音楽に関わる多様な課題の発見や設定を導き出すことができた。さらに生徒自身の話し合いは、課題解決に向けた模索や練習の段取りにも繋がっていった。また、音や音楽について興味関心が広がることで、要素に関わる言葉や記述も充実することが確認された。これらの過程において生徒は、知識と音の実体（音響）の対比を通じて音楽の諸要素に対する正しい知覚と認識を身に付け、それを表現する言葉の適切な使い方を学ぶこともできた。

なお本報告の執筆の際に貴重な示唆を頂いている。是非参考にしたい。「歌唱の授業として同じことを『繰り返し』指導し、大切にしていけることで身に付くことと、その学年、その題材固有で身に付けるべきものがあること、その両方が必要なのではないかと思う。前者のみであれば、どの学年、どの題材でも、同じ学習をただ繰り返しているように見えてしまう。しかし前者が無ければ、知識や技能の定着や態度の育成はできない。『繰り返す内容と学年や題材固有の内容』について、どのように位置付け、自己評価を可能とするか、この点を考えることが今後の課題であろう」

#### 5. おわりに

本報告では、文部科学省の資料を分析し「音楽科教員が知っておくべきこと、知っておかなければならないこと」を整理した上で、そこで得た知見と対比しながら共同研究者による実践との比較考察を試みた。この実践では、活動の目標や各段階での確認ポイント等を自己評価カードへ明示することで、生徒は自発的かつ積極的に話し合い、説明や説得し合うことを通じて課題を洗い出し、それを解決するための練習方法を検討することができていた。さらに、その積み重ねによって音楽の諸要素に関わる言葉や記述が充実することを確認した。正にこれが、音楽科授業において現代的教育課題に対応する教授法の一つであろう。今後は、発達段階に応じた適切な課題を子供自らが発見できるように計画を練って備える授業や、子供の多様な気づきや発見にも対応できるように計画的臨機応変を予め想定しておくような授業を模索したい。

#### [参考引用文献]

- (1) 「学校教育法」第4章第30条の2項
- (2) 文部科学省「諮問：初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について」2014
- (3) 文部科学省「答申：新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成

する大学へ〜」2012

- (4) 文部科学省「OECDにおけるキー・コンピテンシーについて」中央教育審議会審議資料
- (5) 国立教育政策研究所「3. (4) 求められる資質・能力の枠組み試案：育成すべき資質・能力を踏まえた教育目標・内容と評価に関する検討会資料」2013
- (6) 国立教育政策研究所「教育課程の編成に関する基礎的研究・報告書7、資質や能力の包括的育成に向けた教育課程の基準の原理」2014。並びに文部科学省「教育目標・内容と学習・指導方法、学習評価の在り方に関する補足資料 ver. 5」2015
- (7) 国立教育政策研究所「小学校学習指導要領実施状況調査：結果のポイント」2015。並びに「同調査：教科別分析と改善点（音楽）」2015。
- (8) 國安愛子『情動と音楽』2005、音楽之友社
- (9) 拙著『改訂版新しい視点で音楽科授業を創る』2011、Stylenote社。並びに「気付く・感じ取る・比べる・考える・まとめる・伝える、鑑賞は音楽科授業における Active Learning」、『音楽鑑賞教育 vol. 22』2015

(2015年9月1日受理)